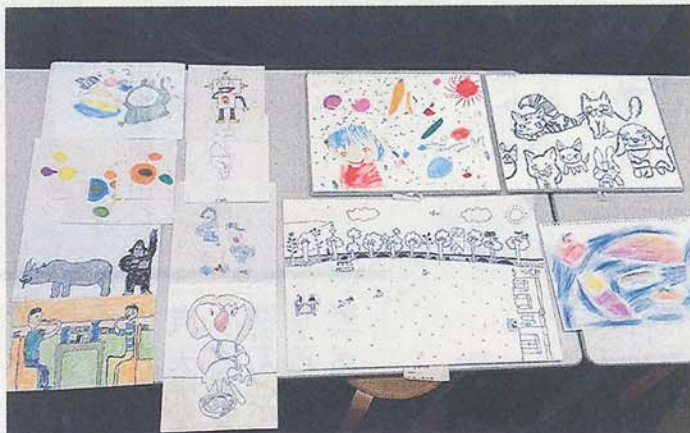


障害者が描いた絵で自立支援

養護学校の生徒が「だんだんボックス」に寄せた作品



紙袋や包装紙のデザインに採用

高浜の豆腐業者

高浜市豊田町の豆腐メーカー「おとつふ工房いしかわ」は、障害のある人が描いた絵を製品に入れる紙袋や包装紙のデザインに使う。障害者がアートを通して自立できるよう、企業や団体が支援する運動「だんだんボックス」の一環。十四日に同社で審査会があった。

「だんだん」は西日本の一部に残る方言で「ありがとう」の意。安城市の安城養護学校の生徒が「笑顔で食べ

る」をテーマに、個性豊かな百点の作品を寄せた。

市や市社会福祉協議

会、だんだんボックス実行委関係者のほか、運動を発案した刈谷市出身の建築家で九州大学院准教授の鶴飼哲矢さんが審査。入賞作十二点を選んだ。十月中旬から印刷して使用する。(早川昌幸)